平成２９年度第２回高梁市総合教育会議　会議録

１．　招　集　平成２９年１１月１５日　午前１０時００分

２．　開　会　平成２９年１１月１５日　午前１０時００分

３．　閉　会　平成２９年１１月１５日　午後　０時０３分

４．　会議の場所　　高梁市役所　３階大会議室２、３

５．　出席、欠席した構成員の氏名

氏　名	出欠の別
近　藤　隆　則	出　席
小　田　幸　伸	出　席
吉　川　　昭	出　席
山　内　廣　子	出　席
川　上　は　る　江	欠　席
和　久　野　慶　子	出　席

６．　会議に出席した者の職氏名

職　　名	氏　　名	備　　考
政　策　監	前　野　洋　行	
健　康　福　祉　部　長	堀　　節　夫	
教　育　次　長	宮　本　健　二	
参　与	田　村　啓　介	
総　合　戦　略　課　長	西　本　隆　之	
こ　ど　も　未　来　課　長	赤　木　憲　章	
教　育　総　務　課　長	大　福　克　志	
学　校　教　育　課　長	張　谷　孝　文	
社　会　教　育　課　長	渡　辺　丈　夫	
ス　ポ　ー　ツ　振　興　課　長	川　上　啓　二	
文　化　セ　ン　タ　ー　所　長	山　崎　一　広	
教　育　総　務　課　課　長　補　佐	西　川　優　子	

７．　協議題

（１）　神原スポーツ公園改修整備事業について

（２）　成羽複合施設の現状について

（３）　一貫教育について

（４）　高梁市立学校再編推進審議会の報告について

８．　議事の概要

１　開会

２　あいさつ（市長）

入学入試制度が変わってくる中で、卒業することが難しくなり、入学はしやすくなるという今までとは逆の状態となってくる。それだけ大学での高等教育が重要視される。自分が何をやりたいかを早くしっかりと見定める必要がある。そのために、小、中学校の段階から、少しずつ目的、志を持たせる必要があるのではないかと思っている。今ある職業は、２０４０年には６５から７０％はなくなるというデータもある。これからの教育は、色々な情報を掴みながら、先生方への指導だけでなく、地域の指導、その中で子供達が色々な知識を吸収できるような環境作りをしていかなければならないという使命があると感じている。今日の議題の中にもあるので、忌憚のない意見を聞かせていただきたい。

３　協議題

スポーツ振興課長	別紙資料により「（１）神原スポーツ公園改修整備事業について」を説明
市長	神原スポーツ公園の整備は、順調に進んでいる。２月末完成の予定である。吉備国際大学シャルムのホームスタジオとして使用していただくことになる。ぜひ高梁でシャルムの試合を見たいという強い希望も聞いている。実現に向かって進んでいるところである。これに関して、質問、意見はあるか。
吉川教育委員	なでしこリーグの公式戦が、高梁でできることは、よいニュースだと思っている。観客席は、１，００２席ということだが、芝生席等での観戦は可能なのか。そうなると最大何人くらいの観戦が可能なのか。今後の維持管理をどのようにするのか。維持管理にどの程度経費がかかると見込んでいるのか教えて欲しい。
スポーツ振興課長	芝生の方でも観戦することはできるが、今季のなでしこリーグ２部の観客数は、一番多くて９０２人であった。他は、３００人とか５３５人とかであったので、湯郷ベル戦をこのホームで行えば、かなりの観戦者数が見込まれるが、ほとんどは、この観客席で観戦することができると予測している。 この改修を行う前は、平成１０年に芝生を入れ替えている。週２日は、養生日を設けていたが、かなり痛みが来ていたので、シャルムや他の試合が土、日にあれば、他の日は使用を停止せざるを得ないと考えている。芝生が新しくなり、散水、施肥、エアレーション等色々手を入れていかなければなら

	ないし、野球場にも、人工芝のサッカー場の観客席にも芝を使用しているため、概算で２千万円程度は全体で必要となると思っている。
市長	立見席となると思うが、有料試合の場合は必要、他の試合は基本的には無料なので、自由に見てもらえる。
和久野教育委員	サッカー以外の使い道はあるのか。
スポーツ振興課長	４００メートルトラックを用意しているので、陸上競技大会や駅伝を神原スポーツ公園で行うこととなる。
市長	芝生を使う他の競技はないのか。
スポーツ振興課長	グランドゴルフには、今使用している。
市長	ラグビーは、できるであろう。
スポーツ振興課長	ラグビーは、ポストが必要となるが、それは用意できていない。
市長	練習は、できると思う。
教育長	グランドゴルフは、大会をすると、一番多く人が集まる。一大会で５００人くらいは集まる。芝の競技場を使用することを期待している。
和久野教育委員	写真を見る限りでは、走る部分が砂地となっているが、将来的には陸上競技ができる地面となるのか。
スポーツ振興課長	砂地でも４種という陸上競技連盟の公認を受けていたが、この度の公認は、棒高跳びのマットが必要等公認のハードルが高くなっているため、陸上競技連盟と相談し見送っている。他市などで舗装している所もあるが、今の陸上の状況を見て、このままで使用するようになる。全天候にすればよいが、そこまで踏み切れていないのが実情である。
社会教育課長	別紙資料により「(２)　成羽複合施設の現状について」を説明
市長	昨年１１月に議会に考え方を示し、実施設計をすすめてきたところである。まだ、形が変わる可能性は十分ある。これで固定するわけではない。もう少し改善も必要であると思っている。寄付者の方の意向もあるので、最終確認を受けた後、改めて議会へ示すことになると思う。今はイメージ的なものであるとご理解いただきたい。もともとは、公共施設の再編整理というところから始まっているので、かなりのものが必要となる。基本はおさえながら進めていきたい。
山内教育委員	全体費用が約１５億円となっているが、内訳は分かるか。また、伊藤謙介氏の図書室もできるので、高梁の図書館まで行くことのできない子のために、学習室のエリアを設けていただきたい。
社会教育課長	内訳は、建築費用が約１１億、駐車場の舗装等の外構工事で１億４千万ほか、実施設計の費用となる。 学習室については、ワークショップの中でも、学習スペースが欲しいという意見を受けているので、この中でどれだけの配置が取れるかというのは、実施設計で詰めていきたい。

山内教育委員	財源で、補助金がいくらで、寄付額がいくらで、一般会計からの持ち出しがいくらとか、おおまかなことが分からないか。
社会教育課長	寄付者との最終の調整もあり、その調整が完了後の発信にさせていただきたい。財源については、基本的には合併特例債を充てていく。
吉川教育委員	未確定な部分は多いと思うが、駐車場の台数は、今の時点ではどのくらいが見込まれるか。
社会教育課長	現状が、美術館、福祉センターを含めての台数であるので、圧縮されるかもしれないが、現状の台数を確保したい。
吉川教育委員	ホールの最大席数が２５０なので、駐車場もある程度必要なのではないか。建物が出来ることはよいことだが、今後の維持管理がどのようになるのか心配している。
社会教育課長	維持管理についての運営研究は大切である。基本の考え方が、施設を複合化し、少しでもランニングコストを抑えるというところから始まった。今までの経費を上回ることのない在り方、運営の工夫を行いたい。
和久野教育委員	ホールの部分はこれで確定するのか。まだ変わるのか。
社会教育課長	ホールの形については、寄付者と何度か協議を重ねているので、この形ですすめていきたい。
和久野教育委員	椅子を可動式としなければならない理由があるか。
社会教育課長	色々な議論をしてきたが、固定式とすると利用が特定される。可動式であれば、ホールの本意ではないかもしれないが、一定の広さのある、雨天時に子供達が利用できるホールにもなる。多様な利用を行いたいということで、可動式を寄付者にもお願いし、一定の理解をもらっているという状況である。
和久野教育委員	飲食は、可能なのか。
社会教育課長	運営については、実施設計において検討していきたい。現段階では、飲食の良い悪いはない。基本的には公共施設、文化ホールであるので、原則としては、飲食は厳しい。飲食の場合は、他の施設を利用すればよいと思う。
山内教育委員	川上町も可動式である。多目的に使うことができてよい。可動式ですすめていただきたい。飲食については、シートを敷けば、川上町もパーティなどに使っているので、使えるのではないか。使えるようお願いする。
和久野教育委員	可動式は、便利で柔軟性があり、よいと思うが、維持管理が高くなると思う。概ねどのくらいになると見込んでいるのか。
市長	施設を集約することで、ランニングコストが下がることが大前提である。電動か手動かは、議論の途中である。電動とすると、電気設備の容量が大きくなり、電気代が高くなる。電動ばかりがよいとは思わない。それを含めて考えなくてはならない。可動式としたのは、面を広くとるように考えた。飲食は、社会教育施設においては、基本的にできない。ルール上はしていない。そのルールを変えるならば、市全体を見直さなくてはならない。もう少し検討の余地があるということで理解いただきたい。

和久野教育委員	吹き抜けはおしゃれでよいが、空調にもお金がかかる。できるだけランニングコストを抑えたいならば、吹き抜けにせず、２階に部屋の数を増やしてはどうか。テラスを重視せず、実用的なものをと思う。
社会教育課長	電動についての補足だが、岡山のイオンに視察に行ったが、ボタンを押すだけで、５分以内で椅子が出てくる。経費について尋ねたところ、１回数十円である。以前に比べると出したり戻したりにはお金はそれほどかからないということだった。 吹き抜けについては、協議もして圧縮している。２階に部屋を増やすとかえって建設費用が厳しい。ホールへのつなぎの部分、上空空間が使えるという設計会社からの提案もあり、現在この形ですすめている。まだ、実施設計の修正も可能なので、ランニングコストとも比較しながらすすめていく。
学校教育課長 こども未来課長	別紙資料により「(３)　一貫教育について」を説明
市長	一貫教育の全体の流れの中で、障害があり、支援の必要な子供の事があるということを説明させていただいた。ふるさとをしっかり知ってもらう、好きになる教育も必要ということで高梁市も進めていくということである。この方向で進んでいると思うが、一方で支援の必要な子供が多くいるという実態が出てきている。スクラム会議もよい機能で、様々な方面の人が携わっていることから、高梁市はよくできていると思う。これに加えて、教育も関係するが、福祉分野でそうした対応ができないか、その対応により自立に向けて改善ができないかも考える必要があると思う。大人になってからの改善はなかなか難しい。小さいうちに見つけて、保護者に理解をしてもらうということも必要と思う。その第一歩として就学前指導係を設置した。
山内教育委員	支援の必要な子供が、就学前で３倍、就学後で２倍に増えているが、年々増える要因は何か、そこから始めないと、対策をしても追いつかないと思う。そのあたりどのように考えるか。私立の園にもコーディネーターを配置しているのか、研修会を行っているのか。
こども未来課長	健診時に支援が必要である子供を見つける体制ができ、保護者にスクラム会議に入ってもらい、一緒に共有するという体制ができたことによる増加が大きな要因である。また、一事業所であった療育機関が、２８年度から複数となったこともある。
市長	要因は、分からない。
教育長	本格的な調査を行なったり、医学上障害名がつかなかったのが、つくようになったということもある。研究者も要因は、分からない。要因の予想としては、環境ホルモン、医学の発達により亡くなる子供が助かるようになったが、なんらかの障害が残った、成育歴にネグレクトなどが加わると、障害が顕著に現れて診断がつく可能性が高くなったりすることが指摘されているが、よくは分からない。

	脳の障害である。要因は分からない。
市長	いかに早く対応するかもある。改善の方策もあるだろうし、自分の特性が何であるかも分かる。自分の特性が何であるかが分からないままになる人もいる。誰がどう引き出せるかは分からないが、ある瞬間に引き出せることもあるらしい。その会議をすることによって、引き出せることに近づけさせることが、将来的に自分の特性を生かして、大人になっても社会人として生きていけることに繋がるという話を聞いた。要因が分かれば、それを改善すればよいが、分からない段階では、今はしっかり対応していくことが最善の方策であると思う。
教育長	幼稚園で対応して上手くいっている。小学校になると、勉強の仕方も集団も違うので、対応ができなくて、上手くいかなくなる。中学校になると、担任が変わるだけで上手くいかなくなってしまう。一貫性ということが強く求められている部分もあるので、幼児から高校の一貫した教育の中心的な課題としてとらえ、つなげていくツール、スキル、体制についても強化していかなければならない。
学校教育課長	コーディネーターの配置については、私立にこちらからは、求めていない。保育園には、連携窓口の役割がある。園長がこの役割を持っている園が多い。研修については、就学前指導係が実施するものには参加していないが、保育園には、保育園協議会という組織があり、その協議会が実施する研修会には参加する。
吉川教育委員	引きこもった状態の児童生徒がいるのかいないのか、５歳児でどこにも通っていない子供がいるのかどうか。
こども未来課長	就学前の５歳児に１０人以下でいる。こども未来課と教育委員会で連携しながら、個別対応している。
吉川教育委員	５歳児でどこにも通っていない子供が、小学校へスムーズに行けないということがある。やすらぎ教室に小中学生が何名通っているか。
学校教育課長	在籍は、十名程度という状況であるが、休まず通っている子は、半数以下である。やすらぎ教室にも通えない子供については、家庭訪問をしたり、保護者の考え方、基本的生活習慣の乱れが起因している場合もあるので、家庭を含めての支援を岡山県が派遣するスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを通じて行ったりしている。どことも連携ができていない子供がいないようにはしている。
吉川教育委員	一つの方法と考えるのは、学校法人岡山希望学園との連携を高梁市としても強めていってもよいのではないかという希望もある。引きこもっていた子供が全寮制の学校にスムーズに行けないかもしれないし、条件が整わなければならないという可能性もあるが、積極的に私立であっても、他の機関と連携してはどうか。
山内教育委員	カリキュラムを組む中で、私立も含めて考えていただきたい。先生の理解も得て、一緒のカリキュラムを組んでいってほしい。
市長	それは、一番の原点である。実現させなければならない。

和久野教育委員	療育指導の関係で、１歳半、２歳半健診で疑いがあると言われると、ネガティブになる。早期発見は大切だが、少しでも悪ければ、自分の子供はおかしいように言われるので、逆に市に対する不信感となる。幼稚園の間に事実を受け入れ、療育を利用できる環境があればよいと思うが、知識が伴わないというところがある。親育ち学習プログラムなどで発達障害や発達障害の疑いがどのようなものであるか、親同士でも勉強し合い、早く訓練したり、対処することでスムーズに入学でき、小１プロブレムも防げるということが分かれば、情報交換会対象児の１７０人も、スクラム会議につなげることができるのではと感じた。勉強会が必要なのではないか。そうでなければ、保護者の同意が得られない情報交換会対象児が、減ってこないのではないかと思う。 教育委員の研修で、親育ち学習プログラムを開催しても、聞いてほしい保護者ほど来てくれないという意見があった。全員の保護者が来ている入学式の前に親育ち学習プログラムを開催するという自治体があり、よい考えであると思った。高梁も、全員参加してもらえるような、入園式の前後や入学式の前に知っておいてほしいことを学べる機会を検討すれば、有効ではないかと思う。検討いただきたい。
市長	よりよくなるようにしたい。
こども未来課主幹	早期発見をしなければならないが、保護者の気持ちに寄り添うことが一番大切であると思っている。子供が大人になった時に、これだけ多くの人が自分の将来を見据えて関わってくれた、ありがたかったと思えるサポートをしていきたいと思っている。
市長	行政の立場からすると、保護者の一人一人の気持ちを掴んでいくことが大切である。これまで以上に適切な対応が出来るように、行政側もスキルアップしていかなければならない。
社会教育課	親育ち学習プログラムであるが、グッドスタート実行委員会を立ち上げている。全園一度にはいかないが、代表園で取り組みをスタートさせている。
市長	学校再編推進審議会の報告は、中間報告をもらっており、１１月２４日に議会全員協議会で報告させていただく。最終報告ではないが、色々な協議を行っての方向性である。
教育総務課長	別紙資料により「(４)　高梁市立学校再編推進審議会の報告について」を説明
市長	１つ目は、再編の基本的な考え方、２つ目が、教育目標を達成するためのあり方ということで中間答申をもらっている。何か質問、意見はあるか。
和久野教育委員	２つ目の中で、新たな学校の制度を研究することについて、現段階で再編の必要があるような学校に対して研究するのか、市として新しいことを行っていこうというものになるのかが分からない。

教育総務課長	新たな学校の制度を研究することの内容についても、審議会の中で、充実した教育施策をすすめるために教育制度の内容についても見直してはどうか、新しく踏み込んではどうかというような議論があった。その中で具体的に教育課程特例校制度を、高梁市に適しているか、可能かというようなことも含めて、現段階では詳細な研究をしていないので、この答申に含めて、教育委員会等で検討していってほしいと答申することとしている。小中一貫校についても、設置してはどうかという研究もしてほしいとのことである。寮制度については、実際にスクールバスでも通学が困難なようなことがあれば、寮制度も考えてはどうかということも検討すべきであろうということである。
市長	答申の概要のみである。 今の児童生徒数の推移の中でどうあるべきなのが一番よいのかが、この中間報告になっていると理解している。この基準となったからといって、すぐにこうしようということではない。準備委員会を作って、少なくとも３年前からやろう、そこで再編しないという判断も出る可能性もある。協議をし、ではどの方向が一番よいのかをみんなで考えようという方向を出してもらったと思っている。様々なケースが出てくるだろうし、市の施策として、地方創成の中で定住に力を入れ、住宅団地の整備、子育て支援をしている。
教育長	協議の中で完結しないものがほとんどである。そういった意味で、この総合教育会議を大事にしていきたい。できるだけ、教育委員会も含めて、情報を出し、教育委員にも考えていただき、提案をもらったりできればと思っている。

４　その他

５　閉会

あいさつ（市長）

年度内に改めて開催したい。話をしたいことはたくさんある。内容等を精査しながら、審議、相談をしていきたい。

小学校と中学校で何か段階がある可能性の方向も示されている。中学校になると、小学校の担任制、中学校の学科担任制、体格をはじめ色々な事が異なってくる。小学校と中学校を一緒にした時どうなるのかというのがあるが、既に設置しているところもあるので、高梁市としては、一貫校を作るということを検討はしていくが、一貫校ではなく、一貫した教育という体制をどうするかということも大事であると考えている。そうしたことをこの会議などで議論いただき、大人になっても高梁を自慢できるような子供を育てていきたいし、保護者も住むことや、子供を送り出す事に誇りが持てるまちづくりをしていきたい。

山田方谷門下の弟子の言葉で、「学ぶものはまず聖人とならんとの志あるべし。それ人聖人に到らば、すなわちはじめて人というべし。」というのがある。まず、人格を高め、聖人となるような志を持たなくてはならない、聖人のような心を持てることによって、人間として一人前になるのだという教えである。努力していきたいと思う。